

# 博物館の来館者数を考える—入館者700万人を迎えて—

たぐち きみのり  
田口 公則(学芸員)

## 7104日で700万人！

2018年10月26日、当館は1995年3月の開館から700万人目のお客様をお迎えしました。大勢の方々に博物館を利用していただいていること嬉しい限りです。入館者700万人を機に、当館の来館者数について考えてみることにしましょう。

700万人に達した日は開館日で数えると7104日目にあたります。それでは50万人、100万人、200万人…と、それぞれの節目を迎えたのはどれくらいの日数だったのでしょうか？ 当館の年報データを見てみました。図1が開館日数と入館者累積数の関係を示したグラフです。7100日で700万人なら、1000日で100万人と大まかには一様に積み重ねてきたとも見えますが、細かくは変動があることが伺えます。開館から5年間は入館者が多く勢いがあり、6年目の初めの1613日目には200万人に達しています。その後ペースがおちついていきますが、400万人に達した4062日目以降にガクンと落ちる時期があります。

## 景気や噴火等の影響

2007年から2017年まで毎年、常設展示入場者数、箱根町観光客数、国が出している遊園地・テーマパーク入場者数を調べ、それぞれ2010年の値を100%として指数化してその推移を示してみました(図2)。3つの線の値はそれぞれ、青線は当館の常設展示入場者数(開館日あたりの平均入場者数)、オレンジ線は箱根町の観光客数(データは箱根町の観光客実態調査報告書)、赤点線は総務省の特定サービス産業動態統計調査「遊

園地・テーマパーク」公表値による入場者数をもとにしています。

2008年から2009年にかけての低下は、世界的景気の悪化(リーマン・ショック)の影響でしょう。これについて影響が及んだのが東日本大震災のあった2011年です。その後、回復していくなか、2015年に再び箱根町の観光客数がガクンと下がります。2015年4月下旬に活発化した大涌谷の火山活動の影響が箱根町全体の観光客数の推移にも現れています。当館の入場者数も少なからず影響を受けたように見えます。

いわゆる来館者数が、景気といった社会現象に加えて、時には噴火といった自然現象の影響を受けていることがわかりました。

## 来館者数を評価する！？

「来館者数が〇〇人を達成」と聞くと、その数字が目標と映り、なにか表面的な評価のみを扱っているのではと危惧してしまいます。その数字を大きな動向に位置づけてみるとともに、累積データの元となる個々の数字も合わせて見るのが大切でしょう。また、来館者数を扱うのであれば、まずは実際に展示室に身を置いて自分自身の目でみるのが大切なことと感ずります。

展示室に立つことで色々と感じ取ることができます。たとえば、土日は来館者が多く、とくに子どもを連れた家族というグループの比率が高いことに気づくことでしょう。また、雨の日に展示室の様子を見てみると、箱根の麓という当館の立地特性から、博物館に立ち寄られる来館者が多いこともわかります。

当館では、このような来館者の傾向に対応して各種の企画を組んでいます。たとえば、家族連れが多い日曜日には、子どもたちが気軽に参加できる「よるずスタジオ」というイベントを開催しています。

来館者数といった情報をもとに、種々の活動の“カイゼン”をすすめていくことが重要な点でしょう。この点において、東大総合研究博物館館長を務められていた林良博さん(現・国立科学博物館館長)は来館者数について、つぎのような興味深い伝統を紹介しています。「いかなることがあろうとも、来館者数を公開しない。(中略)東京大学総長といえども個別の展示の来館者数を知らない。大学の経営トップすら入館者数を知らないということは、来館者数で各展示を評価していないことを意味する。」(大学博物館の現状と未来、『学術の動向』12(2)18-23)これは経営に関わる際に数字が一人歩きすることへの危惧に対する態度であって、一方で博物館関係者は正確な来館者数を把握し、それは個々の企画展示評価に必要な情報としているようです。来館者数に一喜一憂するだけでなく、きちんと展示評価に活かす態度は見習うべきなのでしょう。

来館者数を深く見るには来館者特性(年代、居住地、滞在時間など)を知ることです。しかし、「展示を個々にどのように楽しんでいるか」などは、数字で捉えることが難しい要素のひとつでしょう。いいかえると、博物館利用のパーソナライズという観点でどのようにアプローチできるかが今後の大きな課題です。来館者数が持つ意味を深めるには、来館者のことをもっと見つめていく必要があります。

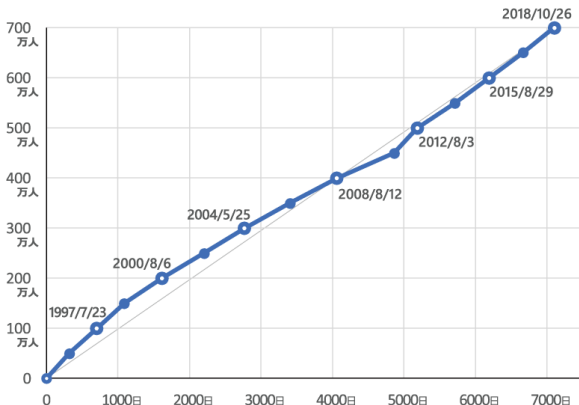


図1. 生命の星・地球博物館の累積入館者数。

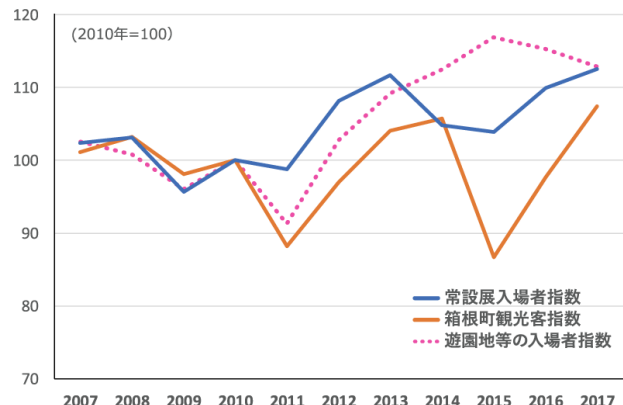


図2. 常設展示入場者指数, 箱根町観光客指数, 遊園地等入場者指数の推移。